

和歌山県地域医療構想（御坊保健医療圏構想区域）

調整会議（第 14 回） 補足資料（資料概要）

【資料 1】

◆地域医療構想の実現に向けた今後の方向性について

- ・人口構造の変化に伴う医療ニーズの変化により、急性期患者の減少が見込まれる。また、医師の働き方改革により、勤務医の労働時間が上限規制されるため、提供できる医療の量も減少するおそれがある。そのため、地域の医療提供機能を継続できるように、機能分化と連携が必要である。(P2～15)
- ・第 8 次医療計画（2024～2029 年度）から新興感染症等への対応に関する事項が追加される。(P17)
- ・昨年 12 月の「国と地方の協議の場」で厚労省が示した資料の一部には「第 8 次医療計画の策定作業では、各地域で新興感染症等対応に向けた検討や病床の機能分化・連携に関する議論等を行っていただく必要があるため、その作業と併せて、2022 年度及び 2023 年度において、地域医療構想に係る民間医療機関も含めた各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しをお願いしたい」とある。(P23)

【資料 2】

◆令和 3 年度病床機能報告（速報値）について

- ・構想区域ごとの病床数では、御坊圏域の急性期が 2021 年度 12 床増加し、慢性期が 2021 年度 12 床減少している。これは、和歌山病院の病床返還がコロナ対応で延期されているためである。(P1)
- ・2021 年の非稼働病床の集計結果では、県全体で 923 床、御坊圏域では 42 床である。御坊圏域で 2020 年度より 38 床増えている。これもコロナ対応のために確保された病床等が影響している。(P4)

【資料 3】

◆外来機能報告制度について

- ・外来医療については、患者に大病院志向があるなか、一部の医療機関に外来患者が集中し、結果、勤務医の負担が増加している。そこで、外来医療の機能分化を進め、まずは「かかりつけ医」を受診し、そこから「高機能の病院外来」を紹介してもらう仕組みをつくるため、2022 年度から「外来機能報告制度」を創設する。(P3)
- ・「外来機能報告制度」とは、病院及び有床診療所を「（紹介状が不要な）かかりつけ医」と「（紹介状が必要な）高機能の病院外来」に機能分化するための報告で、報告内容は、「医療資源を重点的に活用する外来患者の割合」「紹介率・逆紹介率の割合」となっている。報告内容が基準以上になった場合は、「（紹介状が必要な）高機能の病院外来【正式名称：紹介受診重点病院、紹介受診重点診療所】」になるかどうか、医療機関が意向を表明し、地域で協議することになる。(P3)
- ・今後のスケジュールとしては、2022 年 9 月に国から送られるデータを医療機関がチェックして、10 月末までに国に報告。その後、12 月に国から県にデータが送られ、地域で外来機能を明確化する。

るための協議を行う予定である。(P5)

- ・「紹介受診重点医療機関」になると、200 床以上の病院は、紹介状の無い患者から定額負担（初診では現行の 5000 円から 2000 円増額し 7000 円程度）を徴収することが義務づけられる。(P7)

【資料 4】

◆外来医療計画にかかる医療機器の共同利用計画について

- ・医療機関が C T や M R I を購入する場合は、共同利用計画を作成し、協議の場で確認している。購入だけでなく、更新（入替え）やリース契約により設置する場合についても共同利用計画の作成が必要であるため、C T や M R I については保健所に早めにご相談いただきたい。

以上、よろしくお願いいたします。